

資料 1 兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合新病院整備について

兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合新病院整備について (「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編基本計画」より抜粋)

1. 統合新病院の概要について

(1) 課題と対応

① 阪神医療圏、西宮市の課題

- ・高齢化の進展に伴い、更なる医療需要の増加の見込み（特に西宮市は顕著）
- ・阪神圏域の南部・北部全体の医療需要をカバーする必要性 etc

② 両病院の課題

- ・急性期・総合型病院としての診療科不足
- ・施設の老朽化
- ・防災機能の脆弱性 etc

<対応>



- ・両病院を統合再編して新病院を整備する
- ・地域の医療機関との役割分担や連携を強化するなど、
地域の医療機関と相互に協力し合い地域全体の医療の質の向上を図る

(2) 統合新病院の基本方針

ア. 高度急性期・急性期医療の提供

両病院が担ってきた医療を引き続き提供するとともに、地域の医療機関との役割分担や連携を強化し、西宮市域及び阪神圏域における高度急性期・急性期医療を担う中核的な医療機関として必要な機能の充実を図る。

イ. 救命救急センターとしての役割

阪神圏域内の2次救急医療機関や阪神南部の救命救急センターとの役割分担と連携を十分考慮し、救急医療体制の充実を図る。

ウ. 先進医療への対応

県立西宮病院の特色である先進医療への取組を引き継ぎ、関連大学等と積極的に連携し、今後進展が期待されるゲノム医療、再生医療、遺伝子治療の分野においても、臨床研究・治療を実施するなど、先進医療に対応できる病院を目指す。

エ. AI、ICTの活用

今後さらに進展が期待される医療分野でのAI、ICTの活用をはじめとする医療技術の進歩に対応できるよう、将来の拡張性も考慮した病院を目指す。

オ. 医療従事者の育成拠点

地域における医療従事者の育成拠点とするため、若手医師をはじめ、医療従事者にとって魅力ある研修プログラムを提供するなど、医師等医療従事者に対する育成・研修機能の充実を図る。

カ. 災害に強い病院

ヘリポートの整備、免震構造の採用など災害に強い病院を整備する。また、災害拠点病院として引き続き災害医療派遣チーム（DMAT）の設置など災害医療体制を整備する。

キ. 安定した経営基盤の確立

さらなる診療機能の高度化や患者サービスの向上等を図り、継続して西宮市域及び阪神圏域における中核的な医療機関としての役割を果たすことができるよう、安定した経営基盤を確立する。

(3) 統合新病院の主な診療機能と規模

① 5疾病への対応

ア. がん	<ul style="list-style-type: none">・兵庫県指定がん診療連携拠点病院として、外科系・内科系など複数診療科による集学的治療やゲノム医療を提供・手術、化学療法、放射線治療（IMRT）、同種造血幹細胞移植など治療機能の質的・量的強化を図る・統合による人的リソースの集約や機器整備により、画像診断、病理検査の遺伝子診断など検査機能を強化
イ. 脳血管疾患	<ul style="list-style-type: none">・脳神経内科の新設により内科系と外科系が連携して対応する脳卒中センターを設置するなど、脳卒中に対する総合的な診療体制を確立
ウ. 心血管疾患	<ul style="list-style-type: none">・心臓血管外科の新設によりハートセンターを設置し、今後増加が見込まれる心疾患に対応しうる体制を整備
エ. 精神医療 （身体合併症対応）	<ul style="list-style-type: none">・自殺企図、薬物中毒などにより救急搬送された身体合併症を有する精神疾患患者への対応を強化するため、精神科身体合併症病棟を設置・精神科常勤医師の配置により、リエゾン精神医療に取り組む・認知症（または疑い）患者に対する精神科医のコンサルテーションを実施
オ. 糖尿病	<ul style="list-style-type: none">・地域の医療機関との連携を図り、糖尿病の専門的検査や治療、急性増悪時の対応、慢性合併症治療等、糖尿病に対する専門医療を提供

② 5事業への対応

ア. 救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神圏域の救急医療に対応する救命救急センターとして、適切な救急医療を提供 ・ 重度四肢外傷センターとして、外傷対応機能を強化 ・ ハートセンター・脳卒中センターとの院内連携により、今後増加が見込まれる循環器疾患・脳血管疾患患者に対する救急医療機能を強化
イ. 災害医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、ヘリポートの整備、免震構造の採用、DMATの設置、応急収容のための転用スペース確保、消防との連携強化等により、災害拠点病院としての機能を強化 ・ 災害時の被害最小化、災害対応及び早期復旧を図るため、BCPを作成し、地域とも連携しながら日常の訓練等を行うことにより、不測の事態にも医療提供が可能な体制を構築
ウ. 小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中核病院として、入院医療及び内分泌疾患等の専門的な外来診療を提供 ・ 小児中核病院である兵庫医科大学病院、県立尼崎総合医療センターとも連携し、地域輪番日については時間外入院にも対応
エ. 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢出産や各種合併症妊娠等のハイリスク出産が増加する傾向を踏まえ、県立西宮病院が担ってきた地域周産期母子医療センター機能を継続
オ. へき地医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応援医師の派遣やICTを活用した遠隔画像診断等のサポートなど、へき地医療の支援にも留意

③ 診療科目と考え方

- ア. 両病院の診療機能を継承し、両病院の診療科目を維持・充実する
- イ. 今後の高齢者人口の増加や疾病構造の変化を見据え、合併症等に対応できる診療体制を整える。
- 特に、今後患者の増加が見込まれる循環器系、呼吸器系の体制の充実を図る。

【診療科目：35診療科】 ※カッコ内は新設

内科系	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、 脳神経内科 、糖尿病・内分泌代謝内科、血液内科、腫瘍内科、リウマチ内科
外科系	外科、呼吸器外科、 心臓血管外科 、乳腺外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、歯科口腔外科
その他専門	皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、 精神科 、麻酔科、産婦人科、小児科、臨床検査科、ペインクリニック内科、ペインクリニック外科

※診療科目は、今後の国の政策や医療環境の変化を踏まえ、見直すこともある。

④ 病床数と考え方

552床

(一般病床544床 + 精神科身体合併症病棟8床)

<考え方>

- ・ 現在の両病院の稼働病床数 (一般病床 400床 + 144床)
- ・ 稼働率 90%を想定、阪神医療圏で今後増加する患者に対応

(4) スケジュール案

令和7年度の開院を目指し、新病院の整備を進める。

令和2年度以降の基本・実施設計フェーズにおいては、今年度策定した基本計画の内容（設計と条件）を踏まえつつも、設計会社の提案力を活かしながら、両病院関係者、県市事務局がより具体的な協議を行い、計画を更新していく予定である。

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
基本・実施設計	→					
埋蔵文化財調査		→				
建築工事			→			
開院準備						→
開院						●

(5) 概算事業費

(単位：百万円)

項目	内容	概算事業費
① 用地購入費	建設用地の取得費	5,517
② 設計・監理費	基本設計、実施設計、設計監理等	1,377
③ 建設工事費	本体工事、造成・外構 等	24,719
④ 医療機器等整備費	医療機器、情報システム、備品等	7,000
合 計		38,613

2. 施設整備計画について

(1) 配置計画想定図

(配置の考え方・動線例)

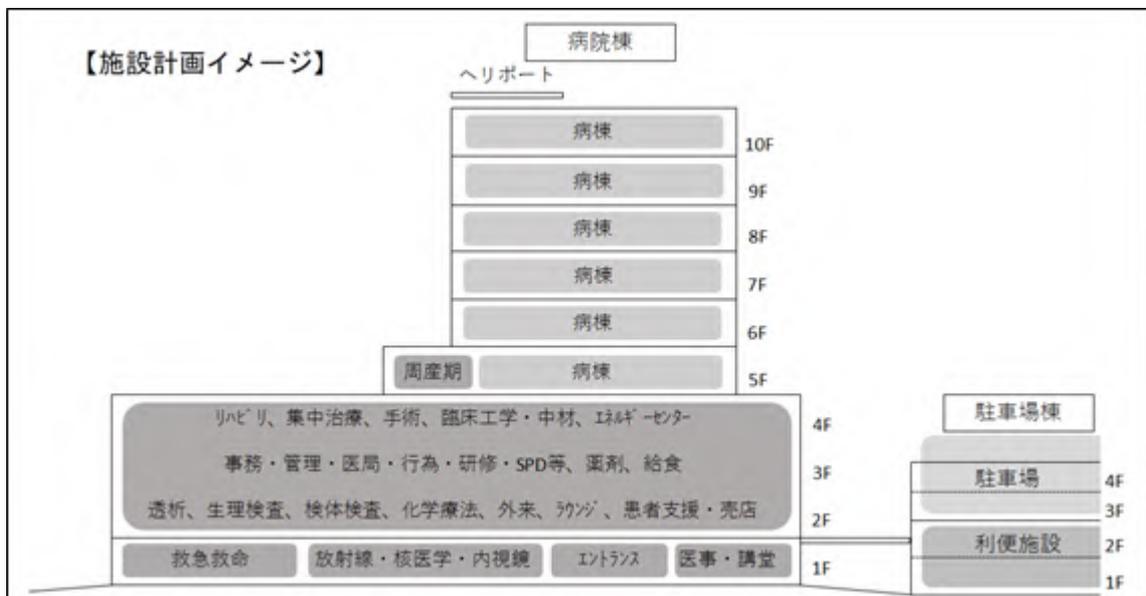
- ▶ 救命救急センターへの救急車両の出入りや駅からの利用者の動線を考慮し、国道2号線に面する南側に病院建物を配置
- ▶ 患者の来院経路に配慮したわかりやすい入口を配置
- ▶ 歩行者、救急車両、一般車両、業務用車両などの動線を明確に分離
- ▶ 将来的な医療技術の進歩等を考慮し、将来拡張性を確保



※参考イメージ図

(2) 建築計画の概要

- ▶ 西宮市域及び阪神圏域における中核的医療機関として、高度専門・急性期医療を提供するために必要な施設等を整備する。
- ▶ 災害拠点病院として、免震構造とし、大規模災害時における医療提供スペースや備蓄スペースの確保を図る。
- ▶ 統合再編新病院が担う機能を踏まえつつ、兵庫県内で近年新たに整備された病院や、全国と同規模・同機能病院の整備状況を踏まえ、適切な規模を設定する。
- ▶ 西宮市の都市景観を保全、育成または創造する観点から、建物の色調や植樹などに配慮する。
- ▶ 施設のライフサイクルコストや環境負荷にも配慮した施設・設備計画とする。



※参考イメージ図

建築物の最高高さ（想定）

・高さは地区整備計画の基準（50m）以内とする。

- ① 高度急性期・急性期医療、救急医療などを提供するために、病院棟には
1階～10階 + 屋上階（ヘリポート等）の構造が必要
- ② 災害時の浸水対策のため、1m 嵩上げを想定
- ③ 各フロアの高さ想定
 - ・低層階（1～4階）の高さ：5m前後
 - ・病棟階（5～10階）の高さ：4m未満

建蔽率・容積率

◆ 病院全体（想定）

敷地面積：26,000 m ²	
建築面積：11,800 m ²	延べ床面積：57,000 m ²
建蔽率：45.4%	容積率：219.2%

⇒ 容積率の見直し（用途地域の変更）が必要

<内訳>

① 病院棟（想定）

建築面積：9,000 m ²	延べ床面積：54,300 m ²
---------------------------	-----------------------------

（病院棟・各フロア別面積）

屋上階	900 m ²	ヘリポート、EV 機械室、倉庫
6～10 階	13,500 m ² (2700 m ² ×5 階)	病棟部門
5 階	4,100 m ²	病棟部門（周産期、小児科）、分娩室、集中治療部門
4 階	9,000 m ²	手術・中央材料部門、集中治療部門、外来部門（透析）、 検査部門（病理）、臨床工学部門、管理部門（エネルギーセンター）
3 階	9,000 m ²	栄養管理部門、薬剤部門、教育研修部門、 医療情報部門、管理部門（事務局、医局、倉庫等）
2 階	8,800 m ²	外来部門（外来ブース、化学療法室）、リハビリ部門、 検査部門（生理機能、検体・採血）、患者支援部門、 管理部門（売店、ラウンジ等）
1 階	9,000 m ²	救急部門、放射線部門、内視鏡部門、 管理部門（医事課、講堂等）

② 駐車場棟等（想定）

建築面積：約 2,800 m ²	延べ床面積：約 2,700 m ²
-----------------------------	------------------------------

・ 利便施設等を予定